

令和8年2月24日

第28回 高校生による海外エネルギー事情研修会 実施報告書



新発見 ～未来きりひらくエネルギー～

～よく見て、聞いて、ディスカッションを通じて多様な視点

(海外独特の異文化、エネルギー、土地柄) を発見し、視野を広げよう～

青森県商工会議所連合会

1. 研修参加者

【高校2年生 6名】

青森県立八戸高等学校

おおの
大野

はるか
陽香

青森県立五所川原工科高等学校

こがわ
古川

らいど
雷音

八戸聖ウルスラ学院高等学校

さんのへ
三戸

ひとみ
瞳

青森県立田名部高等学校

つぼ
坪

さえら
紗衣来

青森県立弘前中央高等学校

はなだ
花田

なゆか
なゆか

青森県立青森工業高等高校

ほり
堀

しょういちろう
翔一朗

(五十音順)

【引率者】

青森県立青森工業高等学校 教諭

小山内 好子

青森商工会議所 経営支援課 主幹

村田 麻奈美

2. 本研修の目的

- 欧州2か国のエネルギー事情を学び、エネルギー資源が乏しい日本において、将来のエネルギーはどうあるべきか、その中で青森県はどのような役割を果たすことが望ましいのか、自分なりに考えをまとめて発表する
 - 様々な視点で物事を見つめることや、海外の異文化に触れることで、自分自身の「成長」につなげる
- ◎発表や議論の場を通じて、「自分の意見を述べる力」を身につける

- エネルギー施設の視察(日本、フランス、スウェーデン)
- フランス、スウェーデン両国の高校生との交流
 - ・英語による自己紹介
 - ・エネルギー問題に関するプレゼンテーション&ディスカッション
 - ・その他、文化交流、食事会など
- フランス、スウェーデン両国の文化(歴史、食事、習慣など)に触れる
- 多くの人たち(生徒、引率者)とのコミュニケーション

3. 全体スケジュール

- (1) 募集案内
6月11日(水) 県内全高校に案内文書発送
7月18日(金) 応募締切 8校13名の応募
- (2) 当選通知
8月22日(金) 当選通知文書発送
- (3) 事前研修会①
10月14日(火)、15日(水) (むつ市ほか)
東北電力(株)東通原子力発電所、
日本原燃(株)原子燃料サイクル施設を見学
- (4) 事前研修会②
1月 6日(火)～8日(木) (青森市)
- (5) 海外研修
1月26日(月)～2月6日(金) (11泊12日間)
- (6) 青森県知事報告会および座談会 2月24日(火)

4. 海外研修日程(1)

| | 月日 | 行 程 | 実 施 内 容 |
|---|-------------|-------------------------------------|--|
| 1 | 1/26 (月) | 青森県内各地⇒東京都内 ⇒東京(泊) | ●新幹線で移動後、都内ではバス移動 ●スウェーデン、フランス大使館を表敬訪問 |
| 2 | 1/27 (火) | 羽田空港⇒パリ ⇒カーン(泊)[フランス] | ●空路、約15時間でフランスへ ●パリから約3時間のバス移動 |
| 3 | 1/28 (水) | カーン⇒モン・サン・ミッシェル ⇒シェルブール(泊)[フランス] | ●世界遺産「モン・サン・ミッシェル」見学 |
| 4 | 1/29 (木) | シェルブール⇒ラ・アーグ ⇒シェルブール(泊)[フランス] | ●オラノ社「ラ・アーグ再処理施設」見学 |
| 5 | 1/30 (金) | シェルブール(泊)[フランス] | ●グリニャール高校の生徒と交流 |
| 6 | 1/31 (土) | シェルブール ⇒パリ(泊)[フランス] | ●パリへ約5時間のバス移動 ●ベルサイユ宮殿、パリ市内見学 ●前半の成果と反省を振り返り |
| 7 | 2/1 (日) | パリ ⇒ストックホルム(泊)[スウェーデン] | ●ルーブル美術館見学 ●空路、フランスからスウェーデンへ |

4. 海外研修日程(2)

| | 月日 | 行 程 | 実 施 事 項 |
|----|------------|----------------------------------|--|
| 8 | 2/2 (月) | ストックホルム ⇒ウプサラ(泊)[スウェーデン] | ●環境モデル地区ロイヤル・シーポート見学 ●市庁舎などストックホルム市内見学 |
| 9 | 2/3 (火) | ウプサラ⇒エストハンマル ⇒ウプサラ(泊)[スウェーデン] | ●フォルシュマルク原子力発電所(PR施設)と フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物 貯蔵施設見学 |
| 10 | 2/4 (水) | ウプサラ(泊)[スウェーデン] | ●ヴァッテンフォール高校の生徒と交流 |
| 11 | 2/5 (木) | ウプサラ⇒ストックホルム ⇒(機内泊) | ●空路、ストックホルムから帰国の途へ |
| 12 | 2/6 (金) | 羽田空港⇒青森県内各地 | ●羽田空港到着後、新幹線にて青森へ移動 |

5. 参加者の個人目標(1)

高校生6名は全員で相談した結果、研修期間中の全体目標(スローガン)を

『新発見～未来きりひらくエネルギー～』

とし、以下の個人目標を設定して今回の海外研修会に臨みました。

| | | |
|----------|--------------|---|
| 大野 陽香 | エネルギー・原子力学習面 | ●原子力発電所で事故を防いだり、廃棄物を安全に処理したりするしくみを5つ以上見つける |
| | 現地高校生との交流面 | ●5人以上に好きな曲(あれば日本の曲も)を聞く |
| | 生活・文化面 | ●現地の食事や振る舞いのマナーを5つ以上学ぶ |
| 古川 雷音 | エネルギー・原子力学習面 | ●自分の考えを持って主張できるようにする ●他の人の考えと自分の考えを比べる ●見学を通して原子力の新たな面を発見する |
| | 現地高校生との交流面 | ●同じ趣味の人を見つける ●英語で会話をする ●日本文化を分かりやすく伝える |
| | 生活・文化面 | ●分からない事や不安な事は確認する ●時間を計算して行動する ●貴重品の管理をしっかりする |

5. 参加者の個人目標(2)

| | | |
|------|--------------|--|
| 三戸瞳 | エネルギー・原子力学習面 | ●エネルギー(発電方法等)の安全性について現地高校生と意見交換し、自分の考えを見つける |
| | 現地高校生との交流面 | ●自分の英語で交流する。そのために、自分から英語で話しかける ●自分と同じ趣味の人を見つける |
| | 生活・文化面 | ●その国ならではの建物や食文化を体験する ●おすすめの食べ物を聞いて、それを食べる |
| 坪紗衣来 | エネルギー・原子力学習面 | ●日本人(高校生)の原子力に対してのマイナスイメージを少しでも良いものにする ●現地で実際に行われている安全対策の具体的内容を知る ●現地の高校生に日本の原子力発電所の事故についての考えを聞く |
| | 現地高校生との交流面 | ●怖がらずに積極的に英語を使って、現地の高校生とコミュニケーションをとる ●日本とフランス・スウェーデンの高校生活・履修科目の違いを知る |
| | 生活・文化面 | ●パリ市内やルーヴル美術館を見学し、文化・歴史的建築物の違いを知る |

5. 参加者の個人目標(3)

| | | |
|-----------|--------------|--|
| 花田 なゆか | エネルギー・原子力学習面 | <ul style="list-style-type: none">●現地の人の原子力発電のイメージを調べる●日本と欧州のエネルギーの違いを比較し、原子力が選ばれる理由を説明できるようにする |
| | 現地高校生との交流面 | <ul style="list-style-type: none">●現地高校生10人とインスタ交換し、10人と写真を撮る●積極的にコミュニケーションをとる |
| | 生活・文化面 | <ul style="list-style-type: none">●現地の食文化を体験する●5分前行動を心がける |
| 堀 翔一朗 | エネルギー・原子力学習面 | <ul style="list-style-type: none">●海外と日本の原子力に対する意見の違いを知る●自分の意見を持つ●原子力施設の仕組みを実際に見て学ぶ |
| | 現地高校生との交流面 | <ul style="list-style-type: none">●自分の意見をしっかり伝え、相手の話をしっかり聞く●インスタ交換する●積極的に交流する●同じ趣味の人を見つける |
| | 生活・文化面 | <ul style="list-style-type: none">●規則正しい生活をする●時間に余裕をもって行動する●体調管理に気をつける |

6. 研修スナップ ①

◆令和7年10月14日(火), 15日(水) 第1回事前研会



写真①
・エネルギー事情学習会他



写真②
・東通原子力発電所見学



写真③
・六ヶ所原燃PRセンター見学

◆令和8年1月6日(火)～8日(木) 第2回事前研修会



写真①
・プレゼン資料の事前発表



写真②
・放射線基礎講座(実験他)



写真③
・文化交流内容の検討

◆令和8年1月26日(月) 出国前日の大使館訪問

<スウェーデン大使館>

<フランス大使館>



6. 研修スナップ ②

◆令和8年1月28(水)「モン・サン・ミッシェル」



◆令和8年1月29日(木)

「ラ・アグ再処理施設」見学



◆令和8年1月30日(金) (グリニャール高校 生徒との交流)



6. 研修スナップ ③

◆令和8年1月31(土), 2月1日(日) (ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館等パリ市内見学)



◆令和8年2月2日(月) (環境モデル地区ロイヤルシーポート、ストックホルム市内見学)



6. 研修スナップ ④

◆令和8年2月3日(火) (フォルスマルク中低レベル廃棄物貯蔵所、
フォルスマルク原子力発電所PR施設見学)



◆令和8年2月4日(水) (ヴァッテンフォール高校 生徒と交流)



6. 研修スナップ ⑤

◆その他(フランス)



6. 研修スナップ ⑥

◆その他(スウェーデン)



7. 研修を終えて(1)

大野
陽香

研修前はエネルギーについて漫然な不安を抱いているだけでしたが、研修で世界的なエネルギーの現状や原子力の可能性、多様な再生可能エネルギーについて学び、エネルギー開発について自分なりに現実的な意見を持つことができました。特に核燃料はリサイクルができること、日本は地熱発電に伸びしろが大きいこと、フランスは石炭火力を廃止していく方向であること、再生可能エネルギーの内訳は各国の自然環境によってまったく異なることなどが印象に残っています。また、エネルギーや英語の教育の遅れも実感できました。海外の高校生とうまくコミュニケーションが取れず、「好きな曲を5曲以上聞く」という目標を達成できず悔しいので、これから外国人や初対面の人と話し協力する能力を鍛えたいです。

エネルギーや異文化について直に学べるまたとない機会を設けていただいたことに感謝し、将来につなげていきたいと思えます。

古川
雷音

今回の研修を通して、私は自分の成長を実感しました。私の目標の一つに「自分の考えを伝えること」と「時間を意識して行動すること」がありました。どちらも自分の弱点だと感じていましたが、達成することができ、とても嬉しかったです。相手から受けた質問に対して、自分の考えをまとめて伝えることができ自信を持つことができました。また、「何が起こるかわからない」という状況を考え、常に早めに行動することを意識し、急なハプニングにも落ち着いて対応することができました。成長を実感した中でも、特に印象に残っているのはコミュニケーションです。1回目の交流会での反省点を踏まえ、2回目の交流会ではリラックスして取り組むことができ、話す回数も笑顔も自然に増えました。

今回の経験から、目標は一つ一つコツコツと努力することで達成できるものだと改めて学びました。また、この研修会で得た成果を自分の強みとして、さらに成長していきたいと思えます。

7. 研修を終えて(2)

三戸 瞳

今回の高校生による海外エネルギー事情研修会に参加させていただき、私はエネルギーに関わるさまざまな知識を身に付けるだけでなく、現地高校生との交流を通じて文化や考え方の違いに触れることができました。今まで私はエネルギーや原子力について自分から考えようとすることがありませんでした。しかし、研修を通してエネルギーは自分のとても身近にあるものであり、日本のこれからのエネルギー事情を自分ごととして考える必要があると感じました。

フランスやスウェーデンの高校に訪問して驚いたのは高校生の皆さんがエネルギーや環境について強く関心を持っている点でした。学校の活動でエネルギーについて考えたり、原子力関連施設に訪問する機会があるため、興味を持ったとお話ししていました。日本で多くの人にエネルギーに興味を持ってもらうためには、正しい情報を伝えて自分で考える機会を持つことが大切だと考えました。私も研修を通して学んだことを周りの友達、家族に伝えるところからエネルギーの大切さを広めていきたいです。

坪 紗衣 来

私は今回の研修に参加するうえで、目標としていたのは原子力に対する日本と海外の人たちの意見の違いを見つけることでした。

主に高校生との交流をしていくうえで、たくさんの発見がありました。まず、フランスでの交流です。現地の高校生は、フランスは原子力に頼りすぎているという意見を持っていました。それに加えて日本の原子力政策に対しては正しい情報を国民に積極的に伝えていくべきだ、といった意見も見られました。スウェーデンでは原子力が最もよいという考えをもった高校生が多く、日本との違いを感じました。

このような交流を通じて感じたのは、両国ともにエネルギー教育がしっかりと行われている、ということです。フランスでは小学生のころから発電所の見学をおこなったり、家に原子力に関する広報誌が配られるそうです。このような政策をすることで、原子力に関する正しい情報を伝えられているのだと思います。

今回の研修を通じて意見の違いを見つけ、未来のエネルギー事情に対しても考えるきっかけになりました。

7. 研修を終えて(3)

花田
なゆか

研修会では、フランスとスウェーデンのエネルギー事情を現地で学び、日本との違いを実感することができました。出発前に立てていた「積極的なコミュニケーション」と「エネルギー理解を深める」という目標は、概ね達成できたと感じています。現地高校生との交流ではエネルギー問題に対する関心の高さを実感するとともに、自分の考えを英語で伝える難しさを感じました。多様な意見に触れる中で、原子力発電に対する考えが変化し、エネルギーに関する理解も深まりました。

1回目の交流では自分から積極的に話しかけることができませんでしたでしたが、2回目の交流では自分から現地の人々の輪に飛び込むことができ、少し積極性が身についたと思います。生活面では現地の価値観や日常に触れ、その良さを感じる一方で、自国の良さを改めて認識する機会にもなりました。今回の研修を通して、エネルギー問題を自分事として捉えていきたいという思いが強まりました。

堀
翔
一
朗

私はこの研修会を通して、フランス・スウェーデン・日本のそれぞれのエネルギー事情や原子力に対する考え方を学び、自分の意見を共有することができました。

また、現地での生活から、異なる文化に触れ、異なる価値観を理解することができました。高校生との交流では、エネルギーに関するディスカッションや文化のことで会話が盛り上がり、友達を作ることができました。英語で伝えきれないところは、ジェスチャーなどを駆使してなんとか伝えることができましたが、語彙力が足りないと感じたので、英語の勉強をもっとしたいと思いました。

将来は原子力に携わる仕事をしたいと思っている私にとって、この研修会はとても楽しく、有意義なものになったと思います。

最後に、私はこの研修会に参加させて頂いたことを感謝し誇りに思います。この研修会で学んだことをこれからに生かせるように努力していきます。